

## 諫早干拓地における共同経営の成果について

立石 静男・松藤 正伝・森 国男  
(長崎県総合農林センター)

TATEISHI, S., MATSUFUJI, M. and MORI, K.

On the Result of Co-operative Management in the Isahaya Polder

諫早干拓地では大型機械が導入され、能率的な水稻栽培が行われている。その成果を40年度でみると、経営方式の違いにより下表のような差異がみられた。

粗収入は共同利用（共同利用6グループのうち最も高い成果をあげた第Ⅲグループ）が最も高いが、農業所得では共同経営と大差がない。

この結果が生じたのは固定資産の農用建物、農機具の投資額にみられるとおり、共同利用の個別経営では倉庫の新設や、トラクターを始め各種農業機械の導入が行われたため、償却費がかさんだことと、肥料、雇傭労賃などの現金経営費を共同経営に比べ倍額投下したために高い収量をあげたが、所得の面には反映しなかつた。

農業資本利子を5%とした労働所得は共同経営が若干上廻っている。（地価は政府売渡価格で10a当り55

千円、戸当り実面積は291a）

しかしながら資本収益率でみると、共同経営は個別経営に比べて2倍の利廻りになっている。

共同経営の10a当り労働時間は、戸当り180aをコンバインで収穫したこともあつて、過去2年間の共同経営や個別経営に比して40%節約となつた。なお共同利用においてもコンバインを共同経営程度利用すれば61.3時間となり、共同経営に近い結果になつたであろう。

また1時間当りの労働所得は共同経営568円、共同利用392円、個別経営248円となつた。

以上の結果から当干拓地では大型機械を利用して、水稻の直播栽培を主体とした能率的な営農が行われ、その成果は共同経営において最も高くなつている。

水稻生産の推移

(一戸当 単位千円)

年次		昭 40			昭 39		和 38
経営方式		共同経営	共同利用 (第Ⅲグループ)	個別経営	共同経営		共同経営
					東組合	西組合	
戸数(戸)		12	4	12	21	23	40
固定資産	土地建物	1,605.8	1,592.1	1,620.6	1,600.0	1,600.0	1,600.0
	農用機	91.7	504.9	446.2	56.2	51.4	60.5
	農具	180.1	812.2	703.2	183.6	176.1	148.8
総計		1,887.6	2,919.2	2,770.0	1,839.8	1,877.5	1,819.3
耕作付面積(ha)		2.6	2.8	2.6	2.7	2.8	1.8
粗収入		1,201.2	1,536.1	1,264.9	852.2	851.1	625.3
総額	経営費	177.8	378.5	340.8	140.4	158.6	74.3
	現償	29.1	145.1	124.1	43.2	47.6	36.0
	卸計	206.9	523.6	464.9	183.6	206.2	110.3
	農業所得	994.3	1,012.7	800.0	668.6	644.9	515.0
	農業資本利子(5%)	98.3	154.9	141.8	95.5	95.3	92.3
労働所得	896.0	857.8	658.2	573.1	549.6	422.7	
家族見積	120.8	140.4	174.0	185.1	170.6	117.8	
農業資本収益率(%)	46.3	29.9	22.6	26.3	25.1	20.5	
一〇アール当り	収量(kg)	431.6	513.3	458.8	326.4	307.7	406.3
	粗収入	45.1	54.3	18.9	31.6	30.4	34.7
	経営費	7.8	18.9	17.7	6.8	7.4	6.1
	農業所得	37.3	35.4	30.3	24.8	23.0	28.6
	労働時間	33.8	34.8	48.5	60.4	60.4	62.4
	男女計	26.9	43.3	53.7	39.6	41.3	34.1
		60.7	78.1	102.2	100.0	101.7	96.5